

「平和の実現」

マタイによる福音書 5 章 9 節

心理福祉学部兼人間福祉学部チャプレン 木村 太郎

先週から「秋のキリスト教週間」が始まっています。毎年この期間、シリーズ礼拝という一つの主題に基づいた礼拝を行っています。今年は「聖書が語る平和」という主題です。

「平和」という言葉を聞きますと、皆さんはどのようなことを思い巡らすでしょうか。

わたし自身そのことを少し考える中で、一つ気付かされたことがありました。それは、平和について思う時、実は平和そのものではなく、平和ではない状態の数々が思い出されるということです。

特に今この時、その思いは強まるばかりです。ロシアによるウクライナ侵攻が始まってから七ヶ月以上経ちます。しかし一向に終わりが見えません。また、北朝鮮から異例の頻度でミサイルが発射され、軍事的挑発が続いています。昨日はミサイルが日本上空を飛んで太平洋に落下するという出来事もありました。

さらに日常生活に目を向けてみると、平和でない状態が 2020 年春から続いています。いわゆる「コロナ禍」です。コロナ禍の「禍」という字は、「わざわざ」と読むことは知っていることと思います。それは平和とは真逆の状態を指しています。

さらにもっと身近なことで言えば、人間関係において、時に争いがあつたり、いがみ合つたり、嫉妬することがあります。平和という言葉のイメージとは程遠い人間関係に悩み、落ち込むことがあります。それは誰しもが経験することです。

そのように、「平和」という言葉から連想することは、世界に目を向けても、また日常生活に目を向けても、往々にして、平和そのものではなく平和ではない状態のことなのです。

しかし、そのことは一つのことを示しているのではないのでしょうか。それは、わたしたちは切に平和を求めているということです。平和について思い巡らす時、平和ではない数々の状況や出来事を思い起こし、それらを憂い悲しみ、しかしそこから平和を切に祈り願うのです。誰一人として平和を祈り願わない人はいません。平和を愛していない人はいないのです。

それではそういうわたしたちに対して、聖書は何を語っているのでしょうか。先ほど朗読されました聖書はこういう言葉でありました。「平和を実現する人々は、幸いである、その人たちは神の子と呼ばれる」。これはイエス・キリストがお語りになった言葉です。

最初の部分に注目してみたいと思います。「平和を実現する人々は、幸いである、・・・」。この言葉をどのように受け止めるでしょうか。これはわたしたちを立ち止まらせる言葉であるように思うのです。

どういふことかと言いますと、もしここで「平和を祈り願っている人々は幸いである」とあったらどうでしょうか。もしくは「平和を愛する人々は幸いである」と言われていたらどうでしょうか。そうであれば、これがわたしたち一人ひとりに向けられている言葉であると受け取ることができるのです。

なぜなら先ほど申し上げたように、わたしたちは例外なく、平和を求めているからです。つまりここで、「平和を愛し、平和を祈り願っている人々は幸いである」とあったならば、それは受け入れやすい言葉なのです。

しかし、ここで言われることは平和の実現です。「平和を実現する人々は、幸いである」。実現とは造るということです。平和を造るのです。実際、別の日本語訳聖書ではこう訳されています。「平和をつくり出す人たちは、さいわいである、・・・」(口語訳)。「平和を造る人々は、幸いである・・・」(聖書協会共同訳)。平和を実現する人々、平和をつくり出す人々、平和を造る人々こそ幸いであるのです。

ここで聖書の言葉に立ち止まられます。平和を愛し、平和を祈り求めることは尊いことです。しかし、そこから一歩先に踏み出し、平和を実現することを具体的に担う人になっていくこそ幸いである、聖書はそう告げているからです。

それでは、平和を実現する人になっていくとはどういうことでしょうか。これは現実的にはとても難しいことです。数々の課題を克服していかなければなりません。様々な知恵や力が必要となってきます。実は今日の聖書の言葉はその難しさも語っています。

特に後半の「その人たちは神の子と呼ばれる」との部分です。この部分を少し言い換えますとこうなります。「平和を実現する人々は、幸いである、その人たちは神さまのような人たちである」。

時に「あの人は神だ」であるとか、「神懸っている」と言うことがあります。無理難題を克服したり、今まで破られてこなかった記録を打ち破ったり、あり得ないことを成し遂げた稀有な人たちを「神」と言ったりするのです。

それと同じように、もしわたしたちが本当に平和を実現する人になるならば、それは神と呼ばれるほど

本当にすごいことなのです。しかし逆に言えば、それはこの世において平和を実現することは極めて困難であり、そのようなことが起こるのは非常に稀であるということでもあります。

それではどうしたらいいのでしょうか。どのようにしたら平和を実現する人になることができるのでしょうか。

それは、この言葉を語っておられるイエス・キリストに倣うことを通してです。神さまの子、まさに真の「神の子と呼ばれ」たイエス・キリストが生きられたように、その後が続いていく歩みをしていくことを通してです。

聖書には、わたしたちが促されている生き方とイエス・キリストの生き方が重ね合わされて、こう語られているところがあります。フィリピの信徒への手紙2章3～8節の言葉です。「何事も利己心や虚栄心からするのではなく、へりくだって、互いに相手を自分よりも優れた者と考え、めいめい自分のことだけでなく、他人のことにも注意を払いなさい。互いにこのことを心がけなさい。それはキリスト・イエスにもみられるものです。キリストは、神の身分でありながら、神と等しい者であることに固執しようとは思わず、かえって自分を無にして、僕の身分になり、人間と同じ者になりました。人間の姿で現れ、へりくだって、死に至るまで、それも十字架の死に至るまで従順でした」。

平和を愛し、平和を祈り願っているわたしたち一人ひとりが、さらに一歩進んで平和を実現する人となっていくために、イエス・キリストの生き方がそうであったように、何よりもまず、「何事も利己心や虚栄心からするのではなく、へりくだって、互いに相手を自分よりも優れた者と考え、めいめい自分のことだけでなく、他人のことにも注意を払」うという生き方に徹するのです。

平和を実現すること。それは、わたしたち一人ひとりの生き方が変えられていくことから始まっていくのです。そして、わたしたちが促されているその生き方を指し示してくださった方こそ、「平和を実現する人々は、幸いである、その人たちは神の子と呼ばれる」と語られたイエス・キリストなのです。

お祈りをいたします。

憐れみ深い天の父なる神、秋学期が始まり、新しい思いをもってそれぞれが学びを始めました。この時、わたしたち一人ひとりの健康を支え、その学びの上に、あなたの深い顧みがありますように。この祈りを、主の御名によって祈ります。アーメン

2022年10月5日 聖学院大学 全学シリーズ礼拝「聖書が語る平和」